

# 園長あいさつ

園長 小松 守



大森山動物園は「動物と語らう森」をテーマに掲げています。人と動物の距離を縮め、日本人が抱く動物観、自然観を意識しながら、人も動物も同じ「いのち」を持つ生き物であることを感じ取ってもらおうと考えているからです。こうした姿勢を貫きつつ大森山動物園の特徴的な色合いを探り続けています。昨年末、ベトナムのサイゴン動物園を訪れました。同じ東洋なのでしょう、そこにある種同じような空気が流れていました。

さて、昨年は大森山動物園の開園40周年の節目の年

でした。大森山公園全体も活かしながら様々なイベントでこれを祝うことができましたが、そのイベントづくりを動物園応援会ははじめ、市民や大学生の力を集結し立ち上げられた40周年実行委員会が主導して行われたことに大きな意義があったように思います。新たなステージへステップアップした年だったと言えます。

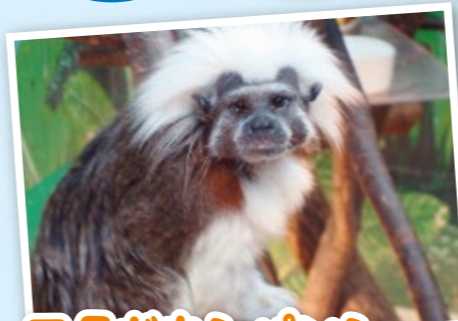
2014年の目標は発信力アップです。園のスタッフがお客様へのおもてなしとしてここまで創り上げてきた「まんまタイム」や動物体験などのサービスをさらにブラッシュアップし、新たな賑わいづくりを進め、そのことで園の教育力も高めていきたいものです。

その総和が必ず発信力アップにつながることを期待しながら。

大森山動物園の移動動物たち

## ヨロシクね!

仲間入りした動物たち



ワタボウシパンシエ

10月10日、石川県のいしかわ動物園からワタボウシパンシエのコロナ(メス)がやって来ました。ランディのお嫁さんとして、繁殖を目的に借り受けしたものです。2頭は年の差カップルですが、年上のランディが振り回されるほどのおてんばさんのようです。早く赤ちゃんが生まれるといいですね。

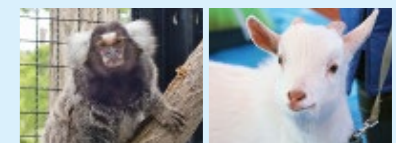


コールドック

11月27日、東京都の井の頭自然文化園からコールドックのオス1羽メス2羽がやって来ました。ふれあい広場には以前から1羽のコールドックがいましたが、数が増え、なおいっそう賑やかになりそうです。

## げんきでね!

大森山を後にした動物たち

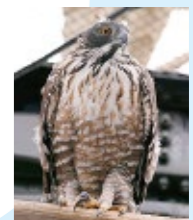


コモンマーモセット シバヤギ

3月23日、コモンマーモセットの父ちゃんとシバヤギ3頭(オス1メス2)が、繁殖を目的に茨城県の日立市かみね動物園に旅立ちました。父ちゃんもシバヤギも向こうでは、早速、繁殖に貢献したようです。

クマタカ

9月12日、クマタカの旭(メス)が北海道の釧路市動物園に、繁殖を目的に移動しました。釧路市動物園ではクマタカの繁殖に力を入れていて、希少なクマタカの種保存に期待がかかります。



この他、ケツメリクガメ4頭とエリマキキツネザルが他の動物園や水族館に旅立ちました。



こんにちは!

# あかちゃん

前回の「こんにちは!赤ちゃん」から1年近く間が開いてしまいましたが、記念すべき開園40周年の1年間に誕生した動物の赤ちゃんを紹介します。



フンボルトペンギン

3月下旬にフンボルトペンギンのヒナが生まれています。4羽が無事に成長し、そのうち2羽を人工育雛しました。ここ2年で6羽のペンギンが人の手で育てられていて、これらのペンギンが動物パレードに参加するなど、お客さまが近い距離からご覧になれます。換羽前のヒナペンギンは大人のペンギンと模様が違うので、すぐわかります。



ラマ

5月16日、2年ぶりにラマの赤ちゃんが生まれました。名前はアンズ(メス)です。生まれてから1時間半ほどで立ち上がりました。今は、母親のアンナと同じ展示場で、飼育担当者と馴致トレーニングを頑張っています。動物パレードの参加もあるかもしれません。



シバヤギ

6月24日にシバヤギにオスとメスの赤ちゃんが生まれました。雄の子どもはお父さんである信濃丞の2番目の息子ということで、丞次(じょうじ)と名付けられました。時に、イギリスでウィリアム王子に子どもが生まれ、名前がこれまたジョージ。何かの縁を感じます。ちなみにメスの子どもはライラです。



アカカンガルー

10月9日、2年ぶりにアカカンガルーの赤ちゃんが袋から顔を出しました。名前はミロ(メス)です。平成25年の通常開園中はなかなかママコ母さんの袋から出てくることはありませんでしたが、12月の下旬からだんだん袋の外に出てくるようになりました。他のカンガルーより一回り小さいかわいらしい姿をご覧ください。



ホンドキツネ

11月28日、埼玉県の東武動物公園からホンドキツネのオスが来ました。メスのアズミとも無事に同居ができました。少し臆病ですが、元気なキツネです。



アカカンガルー

12月18日、鹿児島県の平川動物公園から3頭のアカカンガルーのメスがやって来ました。昨年ではデニーロとモモコが死んで、寂しくなったカンガルー展示場ですが、新たに生まれたミロとこの3頭が盛り上げてくれそうです。

この他、シロフクロウ、ミーアキャット、プレーリードッグ等が新たに仲間入りしました。

飼育動物数		2013年12月末現在	
類	種数	点数	
哺乳類	51種	331点	
鳥類	40種	188点	
は虫類	12種	44点	
両生類	2種	3点	
魚類	3種	90点	
無脊椎動物	1種	16点	
計	109種	672点	

## 訃報

忘れないよ...



フンボルトペンギン 右黄黄/メス 30歳

1996年に広島県の宮島水族館から来園しました。とても人なつっこく、ちょっと小柄なペンギンで、担当者や獣医からかわいがられました。3月29日、新しく生まれたヒナたちと入れ替わるように静かに旅立ちました。



ポニー マーブル(左)/メス 推定23歳 クリン(右)/オス 21歳

2頭は1997年のふれあいランド完成に伴い、大森山動物園にやって来ました。長い間、馬舎の住人としてお客さまにも愛されました。ここ数年は2頭とも病気がちで、治療を続けてきましたが、マーブルは5月22日に、クリンは9月25日に亡くなりました。



ヨツユビハリネズミ ハリー/オス 年齢不明

2009年の年末に秋田県の男鹿水族館GAOからやって来たヨツユビハリネズミのハリーです。アルビノ個体で全身が白く、眼の赤いハリネズミでした。ヤマアラシの隣で展示したり、最近ではふれあいランドやミルヴェ館でお客さまとのふれあい等もありました。



ベンガルヤマネコ ダイア/メス 17歳

2000年7月27日に東京都の恩賜上野動物園から繁殖を目的に借り受けた個体です。ガル(オス)との間に何頭も子どもをもうけました。とてもきれいな個体でした。晩年は猛獣舎内のダイヤ専用の個室でのんびりと過ごしていました。

この他、カナダヤマアラシやモモアカノスリ、ミーアキャットなどが亡くなりました。

この他、1年に2回も出産したコモンマーモセット、3羽のヒナが孵ったコクチョウ等があります。また、久しぶりに無事に成長したレッサーバウダやフラミンゴの赤ちゃん、母親の育児放棄にもめげずに群入りを目指すニホンザルの赤ちゃんについては、飼育レポートをご覧ください。